2B-33

納本

害蟲驅除豫防ニ關スル法規 全

千葉縣內務部產業課

216
735

037451-000-6

特62-667

害虫駆除予防ニ関スル法規

千葉県内務部

M42

BBU-0055

特62
667

害蟲驅除豫防ニ關スル法規

緒言

一本書ハ害蟲驅除豫防ニ關スル法律規則ヲ蒐集編纂シ以テ執務者並ニ當業者ノ參考ニ供ス

一本書ハ明治四十一年五月現行ノモノヲ集錄シタリ

明治四十二年五月

千葉縣内務部産業課

明治 2 6 2 内交

害蟲驅除豫防ニ關スル法規

目次

一　害蟲驅除豫防法……一頁
一　害蟲驅除豫防法取扱手續……四頁
一　害蟲驅除ハ發生ノ初期ニ於テ之レカ實行ヲ期スル件……六頁
一　害蟲驅除豫防法ヲ麥類黑穗病豫防ニ適用ノ件……七頁
一　害蟲驅除豫防及三要項實行ニ關スル件……七頁
一　害蟲驅除豫防法施行規則ノ件……一〇頁
一　害蟲病菌種類及驅除豫防方法ノ件……一五頁
一　害蟲驅除豫防ヲ苗代ニ於テ施行セシムル件……二九頁
一　害蟲驅除豫防委員規程……三〇頁
一　害蟲驅除豫防ニ關スル諭告……三二頁
一　害蟲驅除豫防ニ關スル通牒……三四頁

一稲苗代取締規則……三六頁
一稲田正條植ニ關スル件……三六頁
一共同苗代設置ニ關スル件……三八頁

附録

一害蟲ノ種類及其發生ノ經過……三九頁

害蟲驅除豫防法

（明治二十九年三月法律第十七號）

第一條　此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ

第二條　驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ地方長官ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三條　害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徴收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徴收ニ關シテハ市制第百二條及町村制第

百二條ヲ適用ス

第四條　害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條　地方長官ハ前條ノ驅除豫防ノ爲メニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第二十三條及町村制第百二十七條ヲ適用セス

第六條　地方長官ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物藁稈刈株雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條　驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條　土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入リ驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　地方長官又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ北海道地方費府縣税(地方税)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若クハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得

第十條　蟲類以外ノ動物又ハ黴菌ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條　第三條ノ場合ニ於テ地方長官ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條　第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其指揮ヲ承クル者ノ行

爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條　本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區町村、沖繩縣ノ區間切島及市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第十四條　此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

害蟲驅除豫防法取扱手續

（明治二十九年三月 農商務省訓令第六號）

第一條　害蟲驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害蟲ニ付キ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱、方言

二　主ナル被害農作物ノ種類

三　驅除豫防ノ方法

害蟲驅除豫防法第二條第二項ノ場合ニ於テモ本條ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第二條　害蟲驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ヲ發布シタルトキハ其都度本大臣ニ報告スヘシ

第三條　害蟲一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ隣接市町村ニ於テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條　害蟲隣接府縣ニ蔓延セントスルノ虞アルトキハ其旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第五條　二府縣以上ニ跨リ害蟲蔓延シタルトキハ關係府縣ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ議定シ施行區域ヲ定メ驅除ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ區域及第一條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ直ニ其旨ヲ本大臣ニ具申スヘシ

第六條　害蟲驅除豫防法第十條ニ依リ蟲類以外ノ動物ニ對シ該法律ノ適用ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ本令第一條第一項ノ規定

ヲ適用ス
第七條　害蟲發生シタルトキハ直ニ其旨本大臣ニ急報スヘシ
第八條　害蟲蔓延シ若クハ蔓延ノ兆アリテ市町村費ヲ以テ之カ驅除豫防ヲ行フトキハ其ノ都度直ニ左ノ事項ヲ本大臣ニ報告スヘシ
一　害蟲ノ種類
二　郡市町村名
三　被害農作物ノ種類及被害見積段別
四　被害ノ狀況
第九條　毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月三十日マテニ本大臣ニ報告スヘシ（表式ハ略ス）

害蟲驅除ニ關スル件

（明治二十九年六月二十二日訓令第四十七號）

郡役所、町村役場

害蟲ノ驅除ハ其發生ノ初期ニ於テ之ヲ行フヲ最効アリトス故ニ苟モ農作物ヲ害スル蟲類ノ發生シタル場合ニ於テハ農家ヲシテ其機ヲ失フコトナク務メテ之カ驅除ニ從事セシムヘシ

害蟲驅除豫防法麥類黑穗病豫防ニ關スル件

（明治三十七年三月廿五日千葉縣令第廿八號）

明治二十九年法律第十七號害蟲驅除豫防法ヲ麥類黑穗病豫防ニ適用ス
麥類ニ黑穗ヲ發生シタルトキハ其ノ黑粉ノ飛散セサルニ先チ速ニ之ヲ切採リ燒却スヘシ

害蟲驅除豫防ニ關スル件

（明治三十七年七月二十二日千葉縣訓令甲第四十九號）

郡役所、警察署、警察分署、町村役場

害蟲驅除豫防及三要項ノ實行ハ稻作改良上ノ最急要務ニシテ比年其

普及ヲ奬勵スルコトヲ怠ラス特ニ本年ハ時局ニ鑑ミ一層是等事項ノ勵行ヲ努メ既ニ短冊形苗代ハ縣令ヲ以テ其施行ヲ命シ尋テ正條植ノ普ク一般ニ行ハレンコトヲ勸諭シ農家モ亦其利益ト利益ノ增進ヲ勉ムルハ目下ノ要務タル所以ノ理ヲ會得シ翕然トシテ之レカ實行ニ勤メ挿秧ノ正齊殆ント縣下ニ洽カラシメントスルニ至リ之ヲ前年ニ比スレハ大ニ其歩ヲ進メタルハ稻作改良上尤モ欣喜ニ禁ヘサル所ナリ然ルニ挿秧後螟蟲ノ被害所在ニ尠カラス浮塵子ノ發生亦往々ニシテ之レヲ見ル今ニ及ンテ之ヲ根絶スルヲ勉メスンハ本年挿秧以來氣候適順ノ爲最モ成長ノ佳良ナル稻作モ十分ノ收穫ヲ見ル能ハサルノミナラス蟲害ノ侵襲或ハ非常ノ減收ニ至ランコトナキヲ必スヘカラス蓋シ正條植ノ勵行ハ主トシテ害蟲驅除ノ便ニ資セントセルニ外ナラス害蟲ノ發生ニ當リテ之ヲ利用スルヲ知ラサルトキハ多少ノ勞力ト煩雜ヲ意トセス折角成功シタ正條植モ殆ント其利ヲ受クルコト能ハサラントス刻下螟蟲驅除ノ必要時期ニ際シ而シテ其驅除ハ一部局一地方ニ限局セラルヽトキハ十分ノ効果ヲ見ハスヲ得サルヲ以テ曩ニ告示ヲ以テ其期限ヲ指定シタル所ニ據リ當業者ヲシテ一齊ニ其實行ニ努メンメンコトヲ要ス

縣ハ經費ノ節約ニ務ムルコト時局ノ要ナルニ拘ラス新ニ縣費ヲ支出シ臨時ニ害蟲驅除ノ爲吏員ヲ特設シタルハ驅除豫防ノ一日ヲ緩フスヘカラサルニ依ル任ニ當ル者能ク此意ヲ体シ其責務ヲ盡シ驅除豫防ノ實効ヲ擧ケンコトヲ努ムヘシ

郡町村吏員及曩ニ設置セラレタル稻作改良ニ關スル庶般ノ機關ハ苗代及挿秧ノ改良ニ勉メタルト等シク害蟲ノ驅除豫防ニ盡瘁シ特置吏員ト相提携シテ各其任務ニ從ハンコトヲ望ム縣農會ハ螟蟲驅除ニ便スル爲ニ多數ノ心枯切採ノ器具ヲ購入シ普ク之レヲ各町村農會ニ配附シ作人中器具購入ニ便ナラサル者ニ貸與スルノ方法ヲ設ケタルヲ以テ心枯切採ヲ勵行スルニ於テ一段ノ便益ヲ見ルヲ得タリ宜シク其供給ヲ圓滑ニシ其配附ノ旨趣ヲ空シクセサランコトニ注意スヘシ

害蟲驅除ハ稻作改良上ノ第一歩ニシテ之レカ實行ハ比年之レヲ勉メテ而モ其効果ヲ擧クルノ實尠ナキハ深ク遺憾トスル所ナリ今ヤ軍國多事苟モ國利ノ興スヘク公害ノ除クヘキアラハ秋毫ノ微ト雖モ之レヲ忽ニセス之レヲ除キ之ヲ興スハ國民報効ノ義務ナリ況ンヤ米穀收穫ノ增減ハ直チニ國家經濟ニ影響シ國家經濟ノ消長ハ即チ戰局ニ關繫ス戰時ニ於ケル農民ノ責任亦決シテ輕カラストス局ニ當ル者能ク此義ヲ思ヒ當業者ヲシテ戰時ノ國民タルニ背カサルノ實ヲ擧ケシメンコトヲ勤ムヘシ

害蟲驅除豫防法施行規則

（明治三十九年三月九日　千葉縣令第二十四號）

害蟲驅除豫防法施行規則左ノ通相定ム

害蟲驅除豫防法施行規則

第一條　害蟲病菌又ハ蟲類以外ノ有害動物田畑ニ發生又ハ蔓延シ着ルトキ若ハ發生又ハ蔓延ノ虞アルトキハ作人ハ直ニ驅除豫防ニタ手シ同時ニ町村長ニ届出町村長ハ郡長及所轄警察署長又ハ分署長ニ郡長ハ知事ニ之ヲ急報スヘシ

第二條　左ノ場合ニ於テハ作人ハ町村長ニ届出町村長ハ郡長及所轄警察署長又ハ分署長ニ郡長ハ知事ニ之ヲ急報スヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ地主又ハ管理人ヨリ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

一　明治三十九年三月九日千葉縣令二十五號ニ列記スル以外ノモノ發生シ本則ニ依リ驅除豫防ヲ施行スルノ必要ヲ認メタルトキ

二　害蟲病菌等田畑以外ノ地ニ發生又ハ蔓延シタルトキ若ハ發生又ハ蔓延ノ虞アルトキ

第三條　郡長及町村長ニ於テ前二條ノ報告ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　發生又ハ蔓延シ若ハ發生又ハ蔓延ノ虞アル害蟲病菌等ノ種類方言及之ヲ認メタル月日並ニ其町村大字

二　驅除豫防ノ實施ヲ要スル區域及其期間

三　被害作物ノ種類及被害見積反別

四　被害地及驅除豫防實地ノ狀況

第四條　害蟲驅除豫防法第三條ニ依リ驅除豫防ノ施行ヲ命シタルトキハ郡長ハ直チニ町村長ニ町村長ハ田畑作人ニ傳令シ指揮監督シテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ郡長ハ直ニ町村長ニ命令シ町村費ヲ以テ之ヲ行ハシメ其費用ハ害蟲驅除豫防法第三條第二項ニ依リ其作人ヨリ之ヲ徵收スヘシ

第五條　本令第二條第二號ノ場合ニ於テ驅除豫防ノ施行ヲ命シタルトキハ郡長ハ直ニ町村長ニ傳令シ町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

第六條　害蟲驅除豫防法第五條又ハ第六條第二項ニ依リ夫役ヲ賦課スルノ必要アリト認メタルトキハ郡長ハ豫メ賦課ノ區域並ニ課率ヲ定メ具申スヘシ

第十一條ハ明治四十五年一月千葉縣令第三十號ヲ以テ削除ス

第七條　害蟲驅除豫防法第六條ニヨリ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物藁稈苅株雜草ヲ抛棄若ハ燒棄スルノ必要アリト認メタルトキハ郡長ハ其旨ヲ具申スヘシ

第八條　郡長ハ螟蟲及浮塵子ノ驅除豫防上必要アリト認メタルトキハ苗代ヨリ苗ノ移植ヲ停止スルコトヲ得

第九條　害蟲病菌等一町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ隣接町村ニ於テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第十條　二郡以上ニ涉リ害蟲病菌等蔓延シ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ關係郡長ハ驅除豫防ノ方法及其施行區域ヲ協定シ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ此場合ニ於テハ關係郡長ハ其協定事項ヲ知事ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ關係郡長ノ意見相異ナルトキハ其管轄內ニ係ル部分ニ對シ相當施設ヲナシ速ニ其事實ヲ知事ニ具申スヘシ

第十二條　本令第一條又ハ第十二條ノ屆出ヲ怠リ若ハ本令第四條第

八條ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以内ノ拘留ニ處ス

第十三條　毎年度ニ於テ町村費ヲ以テ施行シタル病蟲害等ノ驅除豫防ニ關スル事項ハ別記ノ表式ニ依リ町村長ハ翌年四月十日迄ニ郡長ニ郡長ハ同二十日迄ニ知事ニ報告スヘシ

附　則

第十四條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十五條　明治二十九年六月千葉縣令第三十八號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

害蟲病菌等驅除豫防報告樣式（各害蟲病菌等種類毎ニ區分スヘシ）

害蟲（病菌其他）名

町村名			計
被害大字數			
仝上農作物ノ種類			
仝上段別			
仝上見積收穫高			
此平年收穫高			
被害ニ付見積減收高			
驅除豫防ニ係ル町村費			
仝上郡費補助額			

害蟲病菌ノ種類及驅除豫防方法（明治三十九年三月九日千葉縣令第二十五號）

明治二十九年三月法律第十七號害蟲驅除豫防法第二條及第十條ニ依ル害蟲病菌又ハ蟲類以外ノ有害動物ノ種類及驅除豫防ノ方法左ノ通相定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十六年三月千葉縣令第十七號ハ本令施行ノ日ヨ廢止スリ

害蟲病菌其他ノ種類

第一　浮塵子（ウンカ、ヨコバイ）　稻

第二　二化性螟蟲（イネノズイムシ、シンムシ）　仝

第三　椿象（ガーガ、イネガメムシ）　仝

第四　苞蟲（ツトムシ、ハマクリムシ、ハマキムシ）　稻
第五　螟蛉（アヲムシ）　仝
第六　蝗螽（イナゴ）　仝
第七　ゆりみゝず（イトミヽズ、ナハシロミヽズ）　仝
第八　針金蟲（コメツキムシ）　麥
第九　麥蛾（バクガ）　仝
第十　穀象（コクムシ）　穀類
第十一　桑天牛（クワノカミキリ、テツポウムシ）　桑
第十二　桑尺蠖（エダシヤクトリ、クワノシヤクトリムシ）仝
第十三　桑介殼蟲（クワノカイガラムシ）　仝
第十四　桑蛄蟖（クワゲムシ、キンケムシ、クワスムシ）　仝
第十五　地蠶（ヨトウムシ）　蔬豆蠶豆蕎麥萊菔等
第十六　蚜蟲（アブラムシ）　麥果樹蔬菜類
第十七　稻熱病（イモチ）　稻
第十八　稻ノ馬鹿苗病（バカナヘ）　仝
第十九　麥黑穗病（クロボ）　麥
第二十　麥赤澁病（ハシブ）　仝
第二十一　麥立枯病（クセ）　仝
第二十二　桑紋羽病（モンパ）　桑
第二十三　馬鈴薯疫病（ベト）　馬鈴薯
第二十四　野鼠（ノネヅミ）　作物一般

害蟲病菌其他驅除豫防方法

第一　浮塵子

一　浮塵子ノ驅除ヲ行ハントスルトキハ豫メ畦畔道路及隣接地ノ雑草ヲ削リ又ハ苅取リ之ヲ集メ土ヲ覆ヒ蟲ノ潜伏ヲ防クヘシ

二　捕蟲網ノ類ヲ以テ捕殺スヘシ

三　燈火若ハ篝火ヲ以テ誘殺スヘシ

四　苗代ノ驅除ハ水便十分ナル土地ニ於テハ深水法、即苗ノ葉先

キ僅カニ一寸許ヲ剩スマテ水ヲ湛ヘ十坪ニ付五勺ノ割合ヲ以テ石油ヲ注キ續テ寸許ニ刻ミタル藁ヲ水面ニ撒布シ蟲ト共ニ苗代ノ一隅ニ掃キ集メ掬ヒ取リ之ヲ深ク土地ニ埋ムヘシ又水便十分ナラサル土地ニ於テハ淺水法即苗ノ根際ヨリ一寸許ノ深サニ水ヲ湛ヘ深水法ト同量ノ石油ヲ注キ苗ニ附着スル蟲ヲ水面ニ掃落シ之ヲ殺スヘシ

五　本田ノ驅除ハ深ク水ヲ湛ヘ一段歩ニ付石油若ハ輕油一升五合（殺蟲油若ハ原油ハ二升以上三升マテ）ヲ注キ稻株ヲ振盪シ又ハ油水ヲ株ニ注キ蟲ヲ陷殺スヘシ

六　水ノ涸レタル田面ニシテ石油ヲ注キ驅除シ難キトキハ船形捕蟲器ノ類ヲ以テ驅除スヘシ

七　苗代ニ於テ苗抜採ノ際浮塵子ノ發生ヲ見タルトキハ必ス注油陷殺及捕殺ヲ行ヒ且ツ苗床ノ一部ニ捨苗ヲ殘シ置キ後チ藁ヲ覆ヒ石油ヲ注キ其中ニ潜伏スル蟲ヲ燒棄スヘシ

八　浮塵子ノ發生又ハ蔓延シタル土地ノ畦畔道路堤塘及隣接地ノ雜草ハ之ヲ燒棄シ若ハ土ヲ覆ヒ雜草中ニ潜伏越冬スル蟲ヲ壓殺スヘシ

第二　二化性螟蟲

一　藁中ニ潜伏スル幼蟲及蛹ハ撲殺壓殺其他適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ壓殺スヘシ

二　田野ニ堆積又ハ散在セル藁ハ倉庫又ハ家屋内ニ密閉貯藏スルカ若ハ宅地内又ハ其周圍ニ搬入集積シ其中ヨリ發生スル蛾ハ他ニ飛散セサル前適宜ノ方法ヲ以テ速ニ之ヲ殺スヘシ

三　蛾ハ捕蟲網ノ類ヲ以テ捕殺スヘシ

四　蛾ハ點火誘殺スヘシ但點火ノ數ハ苗代ハ二畝歩以下ハ一個トシ以上二畝歩ヲ増ス毎ニ一個ヲ増シ本田ハ二段歩以下ハ一個トシ以上二段歩ヲ増ス毎ニ一個ヲ増スモノトス

五　卵塊ハ採集シ之ヲ燒却スヘシ但シ當該官吏吏員ノ認メタル益

蟲保護器又ハ蟲ノ逸出セサル器物ニ密閉スルハ妨ナシ

六　苗拔採ノ際ハ必ス螟卵ノ採集ヲ行ヒ後無害清潔ナル苗ヲ移植スヘシ

七　幼蟲ノ蝕入シ又ハ蛹ノ存在スル心枯及枯穗莖ハ根際ヨリ拔キ又ハ切取リ適宜ノ方法ヲ以テ其中ノ蟲ヲ殺スヘシ

八　稻莖ハ低刈シ刈株ニ蟲ヲ遺スヘカラス

九　稻ノ刈株ハ丁寧ニ耕起反轉シ又ハ深ク土中ニ踏込ムヘシ

十　螟蟲ノ被害劇甚ナリシ塲所ノ稻藁ハ之ヲ燒却スヘシ

第三　椿象

一　容器ニ水ヲ注キ石油ヲ滴下シタル上ル掃ヒ落シ之ヲ殺スヘシ

二　稻ノ株間ヲ徐々ニ步行シ粘質物又ハ捕蟲網ノ類ヲ以テ捕殺スヘシ

三　冬期向陽ノ丘陵原野又ハ松樹ノ皮間等ニ潜伏スルモノヲ搜索シテ捕殺スヘシ

第四　苞蟲

一　除草ノ際之ヲ捻殺スヘシ

二　竹製ノ櫛ニ嚢ヲ附シ稻葉ヲ梳リ蟲ヲ嚢中ニ集メ捕殺スヘシ

三　成蟲即チ「一文字セヽリ」及「ハナセヽリ」ハ捕蟲網ノ類ヲ以テ捕殺スヘシ

第五　螟蛉

一　蛾ハ捕蟲網ノ類ヲ以テ捕殺スヘシ

二　蛾ハ點火誘殺スヘシ

三　幼蟲ハ苗代及本田共一畝步一合ノ割合ヲ以テ石油ヲ注加シ稻葉ヲ拂ヒ陷殺スヘシ

四　蛹ハ採集シ之ヲ殺スヘシ

第六　阜螽

一　成蟲及幼蟲ハ捕蟲網ノ類ヲ以テ捕殺スヘシ

二　卵塊ハ稻株及畦畔ヲ搜索シ之ヲ殺スヘシ

三　幼蟲ハ一反歩ニ付石油一升五合又ハ米糠五升及石油五合ヲ水面ニ撒布シ之ヲ陷殺スヘシ

第七　ゆりみミす

一　あせぼ(馬醉木)ノ生葉ヲ細斷シ苗代一畝歩ニ付十貫匁ノ割合ヲ以テ下種前整地ノ際一寸ノ深サニ耡込ミ二日后其上ニ播種スヘシ

但乾キタル葉ハ之ヲ煎汁トナシ施スヘシ

二　にがき(苦木)ノ葉ヲ苗代一畝歩ニ付十貫匁ノ割合ニテ煎汁トナシ下種后撒布スヘシ

三　發生多キトキハ苗代ハ排水セスシテ淺ク水ヲ湛フヘシ

四　有機質肥料ノ施用ヲ節スルカ又ハ未熟ノ堆肥ヲ施スヘカラス

第八　針金蟲

一　枯葉ヲ生シタルトキハ根際ヲ搜索シ蟲ヲ殺スヘシ

二　被害甚シキ圃地ニハ鹽一升五合ヲ温水四合ニ溶解シ更ニ之ヲ二十倍ノ水ニ溶シタルモノヲ麥ノ根際ニ注クヘシ

三　米糠、胡蘿蔔、甘藷、馬鈴薯ノ切片ニ所々ニ埋メ置キ此ニ集マルヲ俟テ捕殺スヘシ

第九　麥蛾

一　蛾ハ宅地附近又ハ麥圃ニ於テ五月下旬乃至七月中旬ノ間點火誘殺スヘシ

二　五月下旬乃至六月下旬ニ至ル間麥ヲ屋内ニ密閉スヘシ

三　貯藏スルモノハ刈採后雨ニ晒サスシテ十分ニ乾燥シ保米袋ニ容レ置クヘシ

第十　穀象

一　倉庫又ハ貯藏所ハ毎ニ掃除スヘシ

二　俵裝ハ嚴重ニ結ヒ置クヘシ

三　穀象ヲ發生又ハ潜伏セル古俵ハ之ヲ燒棄スヘシ

四　貯藏スルモノハ苅採后雨ニ晒サスシテ十分ニ乾燥シ保米袋ニ

入レ置クヘシ

第十一　桑天牛

一　成蟲即天牛ハ七月上旬ヨリ九月上旬マテノ間早朝桑園ヲ巡視シ捕殺スヘシ

二　幼蟲即「テツパウムシ」ハ其穿孔ニ除蟲菊ノ煎汁又ハ石油乳劑ノ十倍液ヲ注射シ又ハ針金ヲ刺シテ其中ノ蟲ヲ殺スヘシ

三　卵ハ冬期又ハ成蟲ノ發生期ニ於テ幹又ハ枝ノ皮部下ニ於テ之ヲ捕殺スヘシ

第十二　桑尺蠖

一　幼蟲ハ鋏ヲ以テ之ヲ截斷スヘシ

二　冬期疎皮ノ間又ハ束縄ノ下等ニ潜伏スル幼蟲ヲ捕殺スヘシ

三　樹皮ノ間又ハ葉裏ニアル踊ヲ捕殺スヘシ

四　蛾ハ點火誘殺スヘシ

五　六月乃至八月頃枝幹ニ産附セル卵ヲ潰殺スヘシ

第十三　桑介殼蟲

一　介殼蟲ハ冬期石油乳劑ノ五倍乃至十倍液ヲ噴霧器ニテ被害部ニ注キ鏖殺スヘシ

二　幹枝等ニ寄生スルモノハ竹箆ニテ搔キ落シ其跡ニ石油又ハ石油乳劑ノ五倍又ハ十倍液ヲ刷毛様ノモノニテ塗リ擦ルヘシ

第十四　桑蛅蟖

一　卵塊ハ採集シテ之ヲ燒棄スヘシ

二　幼蟲ハ梢葉ニ縄ヲ張リ一所ニ群集セシメ枝葉ト共ニ切採リ燒棄スヘシ

三　冬期落葉又ハ枝葉中ニ蟄伏スルモノヲ集メ之ヲ燒棄スヘシ

第十五　地蠶ヨトウムシ

一　豌豆蠶豆蕎麥萊菔等ノ葉裏ニ産付シタル卵塊ヲ葉ト共ニ採集シ之ヲ殺スヘシ

二　幼蟲ハ葉ト共ニ摘取リ撲殺スヘシ

三　幼蟲ハ圃地ノ周圍ニ幅凡八寸深一尺以上ノ溝ヲ穿チ陷落集合セシメ之ヲ鏖殺スヘシ

第十六　蚜蟲

一　石油乳劑三十倍又ハ四十倍液ヲ撒布スヘシ

二　早朝石鹼水又ハ冷水ヲ注射シ驅除スヘシ

三　蟻ノ集合ヲ豫防スヘシ

第十七　稻熱病

一　稻熱病發生シタルトキハ刈リテ燒却スヘシ

二　冷濕ナル稻田ハ排水ヲナシ地温ノ蒸騰ヲ計ルヘシ

三　肥沃地ニアリテハ窒素肥料ヲ節シ燐酸質加里質肥料ヲ加用スヘシ

第十八　馬鹿苗病

一　插秧ノ際悉ク之ヲ拔取ルヘシ

二　種子ハ鹽水撰スヘシ

三　發芽セシメタル種子ヲ播クヘカラス又厚播スヘカラス

第十九　麥黑穗病

一　黑穗ノ發生シタルトキハ胞子ノ未タ飛散セサル前直ニ拔採リ之ヲ燒棄シ又ハ土中ニ埋ムヘシ

二　種子ハ無害ノ圃地ヨリ撰擇採集スヘシ

三　種子ハ先ツ七時間冷水ニ浸シタル後華氏百三十度ノ温湯ニ五分間浸種シ之ヲ陽乾スヘシ

第二十　麥赤澁病

一　種子ハ鹽水撰ノ上播種スヘシ

二　被害甚キモノハ之ヲ拔取リ燒棄スヘシ

三　種子ハ無害ナル圃地ヨリ採集スヘシ

四　播種ノ適期（特ニ早キニ過キス）及播種ノ適量（特ニ多キニ過キス）ヲ失スヘカラス

五　肥料ハ窒素質ニ過クルコトナク燐酸質加里質肥料ヲ加用スヘシ

六　毎年發生スル土地ハ排水ニ注意シ又他作物ト輪作スヘシ

第二十一　麥立枯病

一　被害ノ苅株ハ收穫後之ヲ集メ燒却スヘシ

二　二月下旬マテノ間ニ於テ麥圃ニ發病ヲ認メタルトキハ過燐酸石灰一反歩二貫匁乃至四貫匁ヲ根際ニ接シテ施スヘシ

三　以上ノ外ハ赤澁病ノ豫防法ニ同シ

第二十二　桑ノ紋羽病

一　被害樹ヲ發見シタルトキハ速ニ其周圍ノ土ヲ深ク堀起シ根ヲ露出シ其表面ニ石灰乳ヲ灌キ直ニ土ヲ覆置クヘシ

二　被害樹ノ周圍ニ溝ヲ堀リ他ニ傳染スルヲ防クヘシ

三　被害甚シキモノハ根莖其他小根ニ至ルマテ堀リ集メ之ヲ燒棄スヘシ

四　被害圃ニ使用シタル農具類ハ洗滌スルニアラサレハ他ニ使用スヘカラス

第二十三　馬鈴薯疫病

一　被害甚シキモノハ之ヲ拔採リ燒却スヘシ

二　種子ハ無害ノ圃地ヨリ採集スヘシ

三　種子ハ外部ニ異狀ナキモノノミヲ撰別シ播種スヘシ

四　葉ニ發病ノ徴候ヲ見タルトキハ速ニボルドウ液ヲ撒布シ又根際ニ厚ク土ヲ覆フヘシ

五　貯藏スルモノハ生石灰四升ヲ水一斗ニ溶解シタルモノヽ中ニ浸シ之ヲ乾シ貯フルカ又ハ貯藏中石灰ヲ撒布シ置クヘシ

第二十四　野鼠

捕鼠器其他適宜ノ方法ヲ以テ驅除スヘシ

稻苗代ノ作人ニ關スル件

（明治四十二年五月十一日千葉縣令第三十六號）

稻苗代ノ作人ハ明治四十二年五月十五日ヨリ左ノ通害蟲ノ驅除豫防ヲ行フヘシ其ノ區域及日時ハ郡長之レヲ告示ス但シ明治三十九年三

月千葉縣令第二十五號二化性螟蟲ノ項中第四號ハ五月二十五日ヨリ本田ニ移植シ終ル迄施行スヘシ

一 明治三十九年三月千葉縣令第二十五號浮塵子ノ項中第七及二化性螟蟲ノ項中第六ノ施行ヲ爲スヘシ

一 同令浮塵子ノ項中第四及二化性螟蟲ノ項中第三第五ノ各號ヲ二回以上施行スヘシ但シ浮塵子ノ項中第四號ノ施行ニ際シ水涸レ注油驅除ヲ行ヒ難キ場合ハ同項第二號ノ施行ヲ爲スヘシ

害蟲驅除豫防ニ關スル件

（明治四十二年五月十一日 千葉縣訓令甲第十三號）

郡役所
警察署
警察分署
町村役場

害蟲驅除豫防ハ稻作改良上最急要務ニシテ比年之レカ督勵ヲ爲シタルニ由リ稍其ノ効果ヲ收メタリト雖今尚ホ縣下ヲ通シテ螟蟲浮塵子ノ畦畔等ニ越冬生存スルモノ尠カラサルヲ以テ今後蔓延ノ虞ナシトセス此ノ際若シ之レヲ等閑ニ附センカ其ノ慘狀ヤ見ルニ忍ヒサルノミナラス年來施行シタル驅除豫防ノ効果ヲ空フセサランコトヲ懼ル是レ即チ本年ニ於テモ苗代田ニ於ケル害蟲ノ驅除豫防ヲ施行スヘキ縣令ヲ發布シタル所以ナリ然ルニ昨年ノ狀況ニ徵スレハ作人中未タ害蟲ノ何タルヲ解セス其ノ驅除豫防ノ方法ヲ知ラサル者多ク從テ之レニ要スル器具其ノ他ノ設備完カラス實行上遺憾ノ點尠カラサリシヲ以テ是等設備ニ關シテハ既ニ夫々通達シタル所アリ當局者宜シク前年ノ成績ニ鑑ミ其ノ施行ノ以前ニ於テ十分庶般ノ準備ヲ完整セシメ宜シク懇切ナル指導ト周密ナル監督ニ努メ協力一致其ノ實績ヲ擧ケシメンコトヲ期スヘシ

害蟲驅除豫防委員規程ノ件

（明治四十一年五月十一日 千葉縣告示第一四〇號）

害蟲驅除豫防委員規程左ノ通定ム

害蟲驅除豫防委員規程

第一條　害蟲驅除豫防ノ爲害蟲驅除豫防委員ヲ縣廳郡役所及町村役塲内ニ置ク

第二條　縣ノ委員長ハ内務部長郡ノ委員長ハ郡長町村ノ委員長ハ町村長ヲ以テ之ニ充ツ縣ノ委員ハ知事、郡、町、村ノ委員ハ郡長之ヲ命シ若クハ囑託ス

第三條　害蟲驅除豫防ニ從事中縣委員ハ執務要報ヲ左ノ樣式ニ依リ之ヲ調製シ二日間毎ニ之ヲ縣委員長ニ報告スヘシ郡町村委員ノ郡町村委員長ニ於ケル亦同シ

郡委員長ハ害蟲驅除豫防事務ノ結了後十日以内ニ害蟲名被害ノ區域及豫防事務狀況等ヲ縣委員長ニ報告スヘシ

受持區域(何郡何町村)害蟲驅除豫防委員　何　某

事項／月日	天氣	巡回町村大字名	害蟲名及被害ノ程度	驅除豫防ノ成績	記事

害蟲驅除豫防諭告

(明治四十一年五月十一日千葉縣諭告第一號)

稻ハ本縣ノミナラズ我帝國ニ於テ最大切ナル作物ニシテ之レガ出來不出來ハ農家ノミナラズ我ガ國經濟ニ關係スルコト大ナリ若シ不幸ニシテ凶作ナランカ之レカ爲メ世ハ忽チ不景氣トナルガ故ニ是迄農會ト力ヲ協セ良米ヲ多ク取ル改良ハ少シノ間モ怠リナク奬メタル爲メニ農家モ亦コノ理由ヲ辨ヘ塩水撰、短冊苗代及ビ正條植ハ概ネ行キ渡リ其外稻ノ作リ方モ年々改良サレツツアルヲ見ルハ喜バシキ事

ナリ夫レ良米ヲ多ク取ル爲メ良キ種子ヲ撰ビ良キ苗ヲ作リ肥料、手入、水ノ掛ケ引キナドニ手落セズ其上天氣都合モヨクシテ青々ト生ヒ茂ルモ若シ、うんか、ずいむし、ナドノ害蟲ヲ防ギ又ハ之ヲ捕ルコトニ心掛ケザレバ折角汗水、流シテ作レル稻モ枯レ或ハ白穂トナリ或ハ倒レテ腐敗シ爲ニ收穫非常ニ減スルモノナリ故ニ是等ノ害蟲ヲ殺ロシ又ハ卵ヲ採リ若クハ未ダ發生セザル以前ニ防クコトヲ種々ノ方法ヲ以テ永ラク奬メ來レルモ農家未ダ、うんか、ずいむし、ナドノ害ノ恐ルベキコトヲ知ラザル者多ク之レガ驅除豫防ニ力ヲ盡サザルハ誠ニ殘念ノ至リナリ

ソモ〳〵害蟲ノ發生ガ年ニヨリテ多少ノ差異アルハ多クハ天氣具合ニ依ルモノニシテ去年ナカリシトテ本年モ亦少シト云フ譯ニ行クモノニアラズ天氣具合カ害蟲ノ繁殖ニ都合宜ケレバ數日ヲ出デズシテ何十万ト云フ數ニ增加シ遂ニ之ヲ驅除スルコト能ハザルニ至ル故ニ害蟲ノ住ム塲所狹マク且其數ノ多カラザル時ニ之ヲ除キ又ハ害ノ少

キ間ニ之ヲ防ガバ決シテ恐ルヽニ足ラザルモノナリ故ニ、うんか、ずいむし、ナドノ稻ノ害蟲ハ其數少ク住ム塲所ノ狹キ苗代ノ時ニ出來ル丈念ヲ入レ之ヲ殺ロシ又ハ卵ヲ採ルコト一番肝要ナリ然レドモ勝手ニ且ツ別々ニ之ヲ行ヒ又ハ一人之ヲ行フモ他ノ者之ヲ行ハザルトキハ其成績甚ダ宜シカラザルモノナレバ農家ハ協同一致シテ一時ニ之ヲ行フ心掛ヲ常ニ持タザルベカラズ追々うんか、ずいむし、ナドノ出ヅル虞アレバ此度夫々係リノ役人ヲ定メ前ニ云ヘル通リ害蟲ノ數ガ少ク住ム塲所ノ狹マキ間ニ捕リ盡クス方針ヲ以テ明治二十九年三月發布セラレタル害蟲驅除豫防法第三條ニ依リ苗代ニ於テ害蟲ノ驅除豫防ヲ爲ス縣令ヲ發布シタル次第ナレバ農家ハコノ理由ヲ辨ヘ害蟲ヤ卵ヲ採リ殺ロスコトノ手後レザルヨウ十分注意セザルベカラズ

日露戰爭後人民ニ税金其他ノ負担ノ割當ガ年々多クナリ品物ノ代價ハ日々騰貴シ暮シ向ヘ月々程度ガ高クナリ其上ニ外國トノ關係ハ昔ト異ナリタレバ我國民ハ各國々ヲ富マスコトニ注意スルコト最大切

ナリ此秋ニ方リ若シ害蟲ノ驅除豫防等ヲ輕忽ニ付シ万一不作ヲ來スガ如キコトアラバ直チニ農家ノ不景氣ヲ惹キ起シ其不景氣ハ延テ我國一般ノ不景氣ノ原因トナルコトナレバ今日ノ農家ハ猶戰爭中ト同ジ心得ヲ以テ農業ニ精勵シ奮ツテ其改良ノ目的ヲ達シ日本臣民タルノ本分ヲ盡サザルベカラズ

稻苗代取締規則

（明治三十七年三月十八日千葉縣令第二十三號）

第一條　稻苗代ノ苗床ハ幅四尺以内長適宜各床ノ間距八寸以上ト爲スヘシ

第二條　稻苗代ニハ一枚毎ニ其ノ面積及作人ノ住所氏名ヲ記載シタル標札ヲ設クヘシ

第三條　稻苗代作人第一條ニ違背シタルトキハ科料ニ處ス

稻田正條植ニ關スル件

（明治三十八年六月二日千葉縣訓令甲第三十八號）

郡役所
警察署
警察分署
町村役場

稻田正條植ニ關シテハ嘗テ諭告又ハ訓令ヲ發シテ之カ必要ヲ勸諭シ農家モ亦能ク此理ヲ會得シテ之カ實行ニ努メ逐年稻作改良ノ實ヲ擧ケツヽアルハ固ヨリ疑ナシト雖モ○カモ其効果ノ未タ完カラサルモノアルハ洵ニ遺憾トスル所ナリ

抑モ正條植ノ利タル苗代ニ於ケル短冊形苗床ノ効用ニ於ケルカ如ク本田ニ於テ螟蟲ノ採卵捕蛾枯莖除去及浮塵子ノ捕殺注油陷殺ヲ實施シ又ハ船形捕蟲器ヲ使用スルニ最モ必要ナルモノニシテ舊慣ノ移植法ニ比シ其効遙ニ優リ加之通氣採熱ヲ利シ改良除草器ノ使用ニ適スル等害蟲驅除ノ便ニ資シ併セテ秋收ヲ增益スルコト決シテ尠少ニアラサルナリ

刻下挿秧ノ期ニ際シ殊ニ害蟲ノ發生蔓延ノ徴アリ今ニシテ之ニ備フ
ルノ道ヲ講セスンハ十分ノ秋穫ヲ見ル能ハサランヲ恐ル
任ニ當ル者害蟲驅除豫防ヲ勵行スルト同時ニ正條植ノ利益ヲ解諭シ
專ラ其普行ヲ督勵シ時局ニ鑑ミ稻作改善ノ美果ヲ收メシムルニ力ム
ヘシ

共同苗代設置ニ關スル件

（明治三十八年四月廿五日
千葉縣訓令甲第廿一號）

郡役所
町村役塲

共同苗代ノ設置ハ苗代管理ノ改良ニ便ナルハ勿論害蟲驅除豫防及灌
漑排水ニ利シ勞力費用ヲ節減シ作業ノ効果ヲ完フスル等稻作ノ改良
發達上至大ノ功益アルハ言ヲ俟タス是レ從來懈ラス督勵ヲ加ヘタル
所以ニシテ今般農商務大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之候ニ付爾今一層作
人ヲ督勵シ普ク之レカ實行ヲ期スヘク特ニ本年ニ於テハ從來集合シ
タル苗代ハ其作人ヲ促シ時機ヲ失セス必ス共同管理ヲ爲サシムヘシ

附錄

○害蟲ノ種類及ヒ發生ノ經過

（イ）螟蟲、此蟲ハ俗ニ「ズイムシ」又ハ「シンムシ」ナト稱スルモノニ
テ其蟲ノ形ハ卵、幼蟲、蛹、蛾ノ四期ニ完全ニ其形態ヲ變ズルモ
ノニテ加フルニ千葉縣下ニ普通ナル螟蟲ハ春ヨリ秋ノ末マデニ
恰モ蚕ガ夏蚕秋蚕ト二回發生スル如ク二化生ヲ爲シ其時々稻ニ
大損害ヲ蒙ラシムルモノニシテ其初ハ前年ノ稻藁又ハ刈株其
他田畔雜草中ニ幼蟲ノ儘冬日ヲ經過シ初春蛹トナリ苗代時ニ羽
化シ苗代ニ來リ產卵スルモノニシテ其當時ノ蛾ハ唯一疋ト雖モ
秋二回ノ發生ニハ三四百疋ニモ增殖スルモノ故最モ注意シテ驅
除スルヲ要ス若シ此當時之ヲ等閑ニナシ苗代ニ來ル灰白色ノ小
蛾ヲ捕ヘ殺ス事ナキトキハ兩三日ノ中ニ雌雄ノ交配ヲ爲シ雌蛾
ハ直ニ稻葉ニ四五十粒宛產卵シ此卵十日許ニシテ孵化シ幼キ苗
ノ下ノ方ニ一疋宛食ヒ入リ挿秧當時迄ニハ苗ノ下葉鞘ノ處ヲ黄

色ナラシメ其中ニテ段々成長スル故若シ之レヲ其儘挿秧スル時ハ本田ニ於テ七月中ニ心枯ヲ作リ虫ハ一莖ヨリ他莖ニ及ボシ害ヲ爲スモノトス而シテ虫ハ段々成長スル故稻莖内ニ於テ蛹トナリ八月初ヨリ再ヒ蛾トナリ飛ビ翔リ雌雄ノ交配ヲ遂ゲ稻ノ先葉ノ元ノ處ニ全ジク四五十粒以上產卵シ化卵ハ直ニ孵化シ今回ハ稻葉中最モ軟ナル即チ當時抽穗セシマヽノ穗梗ノ處ニ一塊ノ幼虫悉ク食ヒ入リ稻ハ白穗トナシ虫ハ此處ニテ一回ノ脫皮ヲ爲シ夫レヨリ匐ヒ出テ糸ヲ吐キ田面ニ下リ四方ノ稻株ノ莖内ニ食入シ次第ニ枯莖ヲ作リ甚シキハ近傍七八株ハ殆ント皆無ニスルコト罕ナラス

如斯カ故ニ此蟲ハ其稻ヲ害スルノ狀況モ明ナル故其害蟲タルコトハ皆人ノ知ル處ナリサレドモ其形態ヲ變ルコト完全ナルガ故ニ蛾又ハ卵ヲ驅除スルコトヲ氣付クモノ少ク又其繁殖ノ割合モ知ラザルヨリ自然適當ナル驅除ノ時機ヲ失シ大損害ヲ蒙ル故當ハトキハ誘蛾燈ヲ點シ又苗代ノ採卵ヲ勵行シ更ニ進テハ第二化期即チ八月初旬ノ蛾ノ誘殺ヨリ枯穗ノ際迄ニハ充分ニ驅除シ盡スベシ今試ニ春初二百蛾（誘蛾燈ナレバ僅一夜一箇ニテ捕殺スル蟲ノ數ニ止ル）ノ蛾アリ中百蛾ノ雌蟲アリ苗代ニ產卵スルトキハ一蛾ノ產卵數五十粒トシ總計五千疋ノ幼蟲トナルベシ而シテ此五千疋カ各々成長シ八月頃蛾化シ又半數ノ雌蛾產卵スルトセハ十二万五千疋ノ幼蟲トナリ出穗ノ頃ニ稻ヲ害スル割合トナル一疋一本ノ穗ヲ害スルモノトセバ一穗ハ平坪百二十粒ナル故二千七百五十万粒ノ籾ヲ損害ス此二千七百五十万粒ハ升目トシ六石一斗一升ノ籾ナル故半摺トスルモ三石餘ノ損害ニ達スルノ割合ナリ誠ニ恐ルベキコトヽス

（ロ）浮塵子「ウンカ」「コヌカムシ」「ヨコバイ」等ト唱ヒ極細小ナル「セミ」樣ノ蟲ニシテ成蟲ハ翅アリテ活潑ニ飛ビ仔蟲ハ翅ナクシテ細小ナリ其極小ナルトキハ殆ント蟲トモ思ハレザル位ニテ恰

モ水面ニ糠ヲ散ラシタルガ如シ故ニコヌカ蟲トモイフナリ此蟲ハ斯ク細小ニシテ唯葉莖ノ汁液ヲ吸取シ漸次ニ稻艸ヲ衰弱枯死セシムルモノナリ之ヲ前ノ螟蟲ニ比較スルトキハ一層激シキ繁殖ヲ爲スモノニシテ即チ前年ノ暮稻田ノ近傍雜草等ニ潜伏シ居タルモノ春ノ初メ羽化シ苗代ニ來リ產卵シ直ニ孵化シ四回ノ脱皮ヲ爲シ植付時ニハ既ニ第二回ノ親トナリ產卵スルニ至リ夫レヨリ出穗迄ニハ三四回ノ化生ヲ爲ス故初春百疋（一苗代ニテ一回ニ捕殺シ得ル數）ノ雌蟲ハ出穗迄ニハ一千万疋ニモ達ス假リニ一疋一粒ノ籾粒ヲ害ストスルモ二石五、六斗ニ達シ半搗トシテ尚一石二三斗ノ玄米ニ相當スル位ノ損害ヲ爲ス殊ニ苗代期若クハ本田初期ニ其驅除ヲ行ハザルトキハ出穗期ニハ殆ント完全ナル驅除法ナキモノニシテ居ナカラ其害ヲ逞フスルニ任スヨリ外途ナキニ至ルヲ以テ苗代又ハ本田ニ於テ注油陷殺又ハ捕殺ヲ怠ルベカラズ

明治四十二年五月廿五日印刷
明治四十二年五月廿九日發行

（非賣品）

發行者　千葉縣內務部產業課

印刷者　股野潛
千葉縣千葉町寒川九百八十九番地

印刷所　積成舍
千葉縣千葉町寒川九百八十九番地